

## 「井戸を掘る魚」

### 【オープニング】

パーソナリティ：(イントロ)TWRプレゼンツ、Creation Moments。皆さん、こんにちは。TWRがお送りするCreation Momentsのお時間です。ナビゲーターのHideakiがお送りします。番組へのご感想はinfo@twrjp.org まで。Podcastでは『ゴスペルの力』『Wave of Grace』も好評配信中です。それでは、早速聴いていきましょう。

まず、聖書の一節をご紹介します。

「獣に尋ねてみよ。あなたに教えてくれるだろう。空の鳥にも。あなたに告げてくれるだろう。...海の魚も語るだろう。これらすべてのうちで、主の御手がこれをなしたことを知らない者があるだろうか。すべての生き物のいのちと、すべての肉なる人の息は、その御手のうちにある。」

(ヨブ記 12章7節前半、8節後半、9～10節)

### 【本編】

井戸は、ふつう人間が水を得るために掘るものです。では、なぜ魚が井戸を掘るのでしょうか。

「井戸掘りの魚」はハタタテハゼの仲間で、南アジアから東南アジアにかけての温かい沿岸の海にすんでいます。大きな口と、特別に長いあごの骨を持つこの魚は、まるで浚渫機のように口を使って海底に穴を掘るのに、ぴったりの体のつくりをしています。

穴が自分の体長より深くなると、この魚は貝殻やサンゴの小さなかけらを集めて、穴の内側に押しつけていきます。やがて、穴の内側全体がそうした硬い材料でおおわれ、壁のようなものができて、まるで昔ながらの井戸のように見えるのです。しかも、優れた技術者なら誰でも知っているように、この内張りは、砂や泥が崩れ落ちて穴に戻るのを防ぐ助けになります。

こうして井戸を完成させると、その魚は頭ではなく尾を先にして穴に後退し、あらゆる危険から守られた安全な隠れ家を手に入れます。また、その穴は、獲物を不意打ちするための待ち伏せ場所にもなるのです。

しかし、この「井戸掘りの魚」に、穴が崩れないように内張りを施すための工学的な知恵を与えたのも、また特別なあごの構造を与えたのも、魚自身ではありません。そもそも魚が、偶然によって「井戸を掘ろう」と思いつき、しかも崩れないように内張りをするための工学的な知恵まで持てるのでしょうか。井戸掘りの魚は、創造主が、私たちがふだんあまり考えもしないような賜物——生物としての設計と、知恵そのもの——を与えてくださる方であることを示す、ひとつの証しなのです。

### 【祈り】

最後に、一緒に祈りましょう。

主よ。あなたは、すべての被造物のために、すべてのことをよくしてください。それは、あなたがあがめられるためです。どうか私にも、目の前にあることを何でもよく行い、あなたがあがめられることを願う心を与えてください。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

(アウトロ)今日は「井戸を掘る魚」について共に考えてきました。

ぜひ、あなたのご感想を [info@twrjp.org](mailto:info@twrjp.org) までお寄せください。

TWRの最新情報は公式サイト [twrjp.jp](http://twrjp.jp) をチェック！インスタグラム (@TWRJapan) も更新中です。

それでは、またお会いしましょう。

(番組終了)

**The Fish that Digs a Well**

***Job 12:7a,8b,9,10***

*“But ask now the beasts, and they shall teach thee... and the fishes of the sea shall declare unto thee. Who knoweth not in all these that the hand of the LORD hath wrought this? In whose hand is the soul of every living thing, and the breath of all mankind.”*

Wells are usually dug by people in order to get water. Why, then, would a fish dig a well?

The well-digger fish is a member of the Jawfish family and lives in the warm coastal waters of southern and southeastern Asia. With its large mouth and extra long jaw bones, the well-digger fish is perfectly equipped to dig holes in the sea bottom using its mouth as a dredging machine. Once its hole is deeper than the length of its body, the well-digger collects small pieces of shell and coral and presses them into the side of its hole. Eventually the entire hole is lined with these hard materials, creating a wall and looking very much like an old-fashioned well. And as any good engineer knows, such a lining helps prevent the sand or mud from collapsing back into the hole.

After finishing his well, the well-digger backs into his hole, tail first, safe from all danger. His hole also provides him with a hiding place from which to surprise his prey.

The well-digger can be given credit neither for the engineering skill necessary to line a hole to prevent collapse nor for the special feature of an extra jaw well-designed to build its well. How could a fish, by chance, think of building a well, no less have the engineering wisdom to line it in order to prevent collapse? The well-digger is an example of how the Creator gives gifts that we don't usually think about, including biological design as well as intelligence.

***Prayer: Dear Lord, You have done all things well for all of Your creatures that You may be glorified. Fill me with a desire to do all things before me well so that You may be glorified. Amen.***

Ref: Chapman, Geoff. “Weird and wonderful; The well-digger.”